

## 多発する火災・風水害に対する決意を新たに

◎令和5年鬼北町消防出初式



1月29日、鬼北総合公園体育館で「令和5年鬼北町消防出初式」が開催されました。

コロナ禍の影響により、3年ぶりに実施された出初式。規模を縮小して式典のみを執り行い、日頃の消防活動の功績と永年勤続をたたえて、次の方々に表彰状が授与されました。また、兵頭町長が「仕事・休日・睡眠の時間を割いて、町民の安心安全のために活動いただいていることに感謝したい」と団員らを激励しました。

各表彰者(敬称略)

【愛媛県知事表彰】

●功労章=二宮博之、森山康臣、松瀬純子

【愛媛県消防協会会長表彰】

●功績章=岩本益太郎

●勤続章=岡本直之、坂尾憲宏、善家順一、杉本直人、葛川薫、伊手康博、佐々木浩之、渡邊克也、松田浩志、井上直人

【愛媛県消防協会会長感謝状】

新本久美子、市山理栄

【鬼北町長表彰】

武田和也、宇都宮寿史、渡邊嘉信、善家靖博、大野圭一、塩崎浩一、松本達郎、塩崎希一郎、川添史裕、篠崎ゆかり



## 3年ぶりに響く「鬼も～うち！」

◎道の駅「森の三角ぼうし」節分イベント



2月3日、道の駅森の三角ぼうしで、節分イベントが行われました。

さくら保育所の園児約20人が、手作りの鬼のお面姿でステージに登壇し、「鬼のパンツ」の歌と踊りを元気よく披露。兵頭町長と一緒に「福はうち、鬼もうち」の掛け声で、楽しそうに豆をまきました。

この日に合わせ、森の三角ぼうしでは「恵方巻」や「鬼灯ジャム」の販売が行われ、来場者で賑わいました。



## 今年1年の無病息災を願って

◎三島どんど焼き



1月22日、三島小学校近くの田んぼで、どんど焼きが行われました。

善光寺の本土悠悟住職が一心に般若心経を唱える中、集まった地域の人たちは燃え上がる正月飾りを見つめて、今年1年の無病息災を祈りました。

子どもたちは、お焚き上げの炎の熱に顔をしかめながらもちを焼いて、三島どんど焼き実行委員会特製のぜんざいにして、おいしそうに頬張っていました。



## 文化財を活かした地域再生を考える

◎文化講演会「明星ヶ丘と下鍵山の街並み」



1月28日、鬼北町文化講演会・シンポジウム「明星ヶ丘と下鍵山の街並み」が、役場日吉支所で行われました。

会では、松山大学経済学部に加藤光一ゼミナールによる「下鍵山地域再生の政策立案・制度設計に関する調査研究」の中間報告と、高知文化財研究所の溝渕博彦代表による「高知県下での地域再生の取組事例」の紹介の後、地域住民を交えたシンポジウムを実施。参加者たちは、地域通貨やコミュニティFMの構想などに熱心に耳を傾け、地域と文化財が存続していくためのアイデアを話し合いました。

## 文化財を火災から守り、次世代へ

◎国指定重要文化財・善光寺薬師堂防火訓練



文化財防火デーの1月26日、国指定重要文化財である善光寺薬師堂＝小松＝で防火訓練が行われました。

訓練では、近隣住民や地元消防団員ら約20人が参加。薬師堂に設置されている自動放水銃などの防火設備を実際に稼働させ、火災発生時の連携方法などを確認しました。

また、練習用の水消火器を使用した消火訓練も行い、消防隊が到着するまでの初期消火の手順を確認。参加者たちは、地域が誇る文化財を火災から守り次世代へ受け継いで行こうと、鬼北消防署の指導の下、真剣に訓練に臨んでいました。

## 失敗しても、頑張ったことは次に生かせる

◎人権を考える集い



2月11日、広見体育センターで「人権を考える集い」が開催されました。

第18回鬼北町PTA研究大会を兼ねて行われた本講演会には、74人が参加。歌手の木山裕策さんが、ガンを患ったことによる挫折や仕事での失敗、それを受けて変わった人生や考え方について、赤裸々に告白し、オーディション番組で不合格となった経験から、「負けても立ち上がり、次の希望を見つけて進む姿勢が大切」と参加者を勇気付けました。

また、自身のデビュー曲「home」などを熱唱し、「人を励ます歌を届けたい」と笑顔で語っていました。

## 地元の味で、郷土愛を育みたい

◎好藤小学校食文化普及講座



2月8日、好藤小学校で「食文化普及講座」が行われました。

子どもたちに、地元の食材を使った料理を通して、地域の良さや食文化について考えてもらおうと、鬼北町生活研究協議会が実施。この日は、好藤小学校5・6年生を対象に行われました。

会員から「包丁を使うときも怖がらずに、家でも積極的にお手伝いしてほしい」と指導を受けながら、児童たちは「きじ飯」や「しか肉のロースト」などの調理に挑戦。料理の大変さや難しさを体感しながら、慣れない包丁さばきに奮闘していました。